

西多摩医師会報

第199号 平成元年7月



都指定有形文化財 熊川神社 福生市

目 次

	頁		頁
1. 平成元年度臨時総会	2	7. 西東京臨床糖尿病研究会御案内	7
2. 理事会報告 総務部	3	8. 新入会員紹介	8
3. 三多摩地区広報研究会 大嶽栄二	5	9. 医師会日誌	9
4. 漢方療法講演会抄録	6	10. お知らせ	12
5. 西多摩医師会写真展	6	11. あとがき	13
6. 文芸			
テレビ報道に感涙す 小泉新策	7		

平成元年度臨時総会開催



平成元年度臨時総会が、5月27日(土)午後2時より西多摩医師会館講堂において開催された。

足立総務部長司会により、議長団(後藤伸議長、土田守一副議長、波田野洋夫副議長)登壇。資格審査の結果、会員数284名中委任状を含めて176名出席があり、総会成立が議長より宣言された。

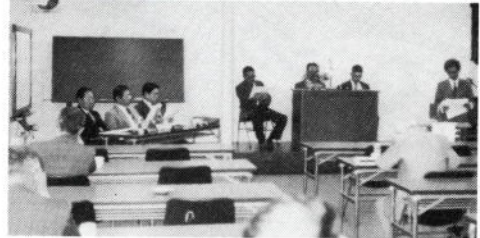
議事録署名人に坂本保会員、鈴木修会員が指名された。

○西村邦康会長開会挨拶(要旨)

週末おそがしいところ参集いただきまして有難うございます。63年度の決算報告が、のち程ありますが、その前に医師会の現況についてお話をいたしたいと思います。

この度東京都医師会の役員改選が行われ、福井光寿先生が会長に就任され若返りが進んでおります。西多摩医師会より東京都医師会に出ている委員も少く変動はあっても、前年度の数を揃えたいと考えております。福井都医会長は、考えとして会の中に融和と下意上達をもとにして、これからの厳しい時代にも対応出来る新しい東京都医師会を作りたいと話しておられます。我々もこの考えに答えて、西多摩が現在抱えている問題を都医師会へ、又これを通じて日本医師会に物申していきたい。そのためには、地元で上からの仕事を流すということだけでなく、我々が身をもって感じている地域の中にある医療の問題、保健の問題について積極的に取組み、その結果としてその中にある問題点をどしどし都医、日医に持っていくたい。

来年には医療法の改正等の問題があり1つの正念場に置かれるわけで、この問題にあたって地域住民の支援のない限りにおいては、医師会は孤立した立場に立たざるを得ないだろう。我々の進むべき道は、地域住民のニ-



ズに応えられるような医療、福祉に積極的に取り組んでいくことだと考えております。

幸いに、さきの定時総会において、各部より事業計画が示され、積極的に事業を進めていくとの報告がなされておりますので、会員の先生方におかれましても、ご協力下さるようお願い申し上げます。

審議事項につきましては、慎重審議のうえ承認を賜りたくお願い申し上げます。

審議事項

1. 昭和63年度一般会計収支計算につき承認を求める件 大嶽経理部長
2. 昭和63年度特別会計収支計算につき承認を求める件 大嶽経理部長
3. 監事監査報告 近藤監事
2~3の質疑応答ののち — 承認 —
大塚渉副会長より閉会の挨拶あり、議長団降壇し臨時総会は終了した。

臨時総会終了後引続いて下記の総会が開催された。

◎西多摩医師会互助会

1. 昭和63年度会計報告 大嶽会計
— 承認 —

◎ { 西多摩医師政治連盟
東京都医師政治連盟西多摩支部

1. 昭和63年度事業報告 松原副委員長
— 承認 —
2. 昭和63年度会計報告 大嶽会計
— 承認 —

◎西多摩乳児健康診査医会

- 昭和63年度決算の承認を求める件
(監査結果報告) 坂本医会会長
— 承認 —

◎T M M A西多摩支部

1. 事業報告 堤 支部長
2. 昭和63年度会計報告 波田野会計
— 以上承認 — (文責 大嶽栄二)

理事会報告

5月定例理事会

平成元年5月23日(火) P.M 7:30

西多摩医師会館講堂

議事録署名人 { 宮川理事
大堀理事

1 報告事項

(1) 都医地区医師会長協議会報告

西村会長

1. リハビリテーション専門病院看護婦募集について

平成2年5月に開設予定の東京都リハビリテーション専門病院(設置主体東京都運営、受託法人東京都医師会)の看護婦募集が行われる。募集人員43名で、このうち25名は都立病院より、18名は一般募集となる。

2. 第196回(臨時)代議員会開催予定について。

3. 日本医師会館新築記念像寄贈について

文京区駒込に日本医師会館が平成2年2月完成の運びとなる。東京都医師会として、後世に残る「医」を象徴するブロンズ像を記念として贈りたいので協力をお願いしたい。

4. 昭和63年度生涯教育申告書提出について

5. 学校医の手引きについて

近く改訂版が出されるが、学校医には、無料で配布される。

(2) 三多摩ブロック地区医師会長協議会報告

西村会長

新旧の会長が集った。席上、三多摩ブロック会長会のルールを作る話が出た。

議題としては、休日診療連絡協議会委員、医事紛争委員会委員、学校医評議会委員の問題が出た。

(3) 休日夜間診療体制打合せ会報告

宮川理事

5月15日東京都医師会館で行われた。土曜日の夜間診療が加わった新体制が、10月より発足する。

(4) その他

入退会会員

— 承認 —

2 協議事項

(1) 平成元年度臨時総会全般について

足立理事

(2) その他

- 土曜休日夜間診療体制発足に対する西多摩医師会の対応について

宮川理事

西多摩医師会救急休日診療委員会にて検討され、新しく発足する体制について西多摩医師会で考えられる7案が提出された。この7案について医師会全員に送付してアンケートをとる。

— 了承 —

- 日本医師会館新築記念ブロンズ像寄贈について

西村会長

1医療機関毎に1,000円づつ拠出をお願いする。

— 承認 —

- 西多摩各自治体に問合せて、休日診療経費、予防接種費、老健法健診費等の保健事業費が、全予算に占める割合がどの程度になっているかを調べてもらいたい。調査部をお願いする。

西村会長 — 了承 —

- 学校健診で見出した疾病を、自家で診療する場合には、初診料は算定出来ないという問題があるので注意を、喚起しておきたい。

内山監事

(総務部)

6月定例理事会

平成元年6月8日(木) P.M 7:30

西多摩医師会館講堂

議事録署名人 { 秋山理事
大嶽理事

1 報告事項

(1) 平成元年度臨時総会報告

西村会長

(2) 東京都医師会新執行部懇親会報告

西村会長

(3) 三多摩地区広報研究会報告

別掲

大嶽理事

(4) 地区医師会調査担当理事連絡会報告

大嶽理事

6月7日(水)東京都医師会におい

て開催された。今回の連絡会の主議題は、中医協の医療経済実態調査についてであった。

福井都医師会会長より、とり方によっては問題のある調査ではあるが、協力をお願いしたいむねの挨拶があり、吉田清彦日本医師会常任理事より、本年6月1ヶ月間の調査について記載の説明が行われた。調査客体は東京都においては、病院138施設、診療所は284施設で、そのうち西多摩においては病院4、診療所2施設が当たっている。後日当該医療機関には、今回の連絡会の模様を連絡申し上げる予定である。

(5) 平成元年度特殊疾病(難病)研究検討
会報告 大堀理事

6月3日(土)中野区立中野文化センターにおいて特殊疾病に関する研究報告が行われた。「特殊疾病対策の地域活動とその効率的推進に関する研究」のセッションにおいて「広域西多摩での在宅難病事業」と題し西多摩地域の特殊性と西多摩医師会の特殊疾病に対するこれまでの取り組みを報告した。

(6) 東京都医師会学校医会第16回評議員会
及び定時総会報告 湯川理事

6月8日東京都医師会に於て開催

○報告事項 昭和63年度事業報告

都立高等学校医の組織化、都立高等学校生徒の心臓検診事業、「学校医の手引き」の発刊、退職学校医への感謝状贈呈等が前年度と異なる点である。

○議事

第1～4号議案迄全て可決決定され、ひきつづき新役員を選出が行われた。会長は福井光壽、副会長は菊田能敬、山内信、中村陽、加藤宣之の各氏が選出され、理事12名も決定した。

(7) 在宅難病訪問診療事業における調整委
員会報告 林 理事

6月5日(月)福生市健康センターにおいて行われた。出席者は三保健所代表者、医師会側は、鈴木修主治医と大堀洋一、木村隆、林実各公衆衛生委員。

議題：訪問診療に係る具体的検討議題
について。

難病訪問者の決定と専門医派遣
について。

(8) その他

東京都眼科医会にて3才児の眼科検診が7月から実施予定されていたが、都医師会との間で、問題があり協議がなされた。実施の内容についても検討が更に加えられて、実施されるとしても8月に入ってからになる予定である。

真鍋理事

2 報告承認事項

(1) 入退会会員 — 承認 —

(2) 学校医(眼科)の推薦
都立秋川高校 } 八尾雅章先生を
都立秋留台高校 } 推薦する
— 承認 —

(3) 税務署での消費税の問題に関する消費者モニター(医師会側委員)を大塚副会長に依頼した。 — 承認 —

3 協議事項

(1) 小山早苗事務職退職に伴う職員採用について 大塚副会長
正副会長に一任する。 — 承認 —

— フリーターキング —

○大門診療所の問題について

このことについては、理事会で承認されているが、救急休日診療委員会、地域医療委員会でも検討していただくことになっているし、又、5月29日には、第1回の大門診療所の管理運営に関する懇談会が設置され公的な場において、この問題が取上げられるようになった。

西多摩医師会、青梅市医師会も然るべく検討して考え方をまとめておく必要がある。

西村会長

— 医 政 連 —

東京都議選における西多摩医政連の推薦候補者について

松原副会長
(総務部)

三多摩地区広報研究会

5月26日(金)北多摩医師会館において開催された。夜8時からの集りであったが、21医師会、延33名の出席があり、当番医師会は八王子市医師会が当り盛大な会であった。東京都医師会からは、担当理事である杉浦稔先生、牧政明先生、広報委員長近藤忠雄先生、広報副委員長牛尾博昭先生が出席され、最後に総括的意見を述べられた。当医師会からの出席者は道又正達理事と私である。

当日の議題は

- 1) 広報活動のあり様 (多摩市医師会)
- 2) 医療記事のつくり方について

(北多摩医師会)

- 3) 医師は何故高額所得者とみられるか。

(八王子市医師会)

- 1) については、色々の原稿が出てきた場合に、会報に掲載すべきかどうか判断に苦むことがある。このような場合に、個人の意見のチェックポイントはどこにあるのか、各医師会の意見を聞きたい。ということで提案された。北多摩からは「個人の政治、宗教、経済は掲載しないことにしている。

会報は対内的なものであるから会が何をしようとしているかを会員に知らせる意味で論説的なものは、会を執行する者の意見を載せるべきで、会長、副会長が書くべきだ」と述べられた。「会報の発行人は会長であるので会長の意見を聞いて掲載する」「巻頭の記事は必ず会長、副会長に書いてもらう。又巻末の随想の欄には、自由な意見を書いてもらう」等々の意見が出されたが、全体的な感想としては、会報は現執行部の広報誌であるので、この形を堅持して行こうという姿勢が大部分のようであった。

- 2) については、我々が医療記事をつくるだけでなく、商業新聞に出てくる医療記事に対して、我々はどうか対処するか、即ち彼等がこのような医療記事を、何処で仕入れ、どのようにして紙面に発表するの

か知っておく必要があるのではないかと
いうことで、議題提起の説明があった。

「間違っただけを平気で書くということについて考えてみると、自分の知っていることは、記事として仲々書きづらいが、知らないことは割合書き易いということがあり、新聞記者にも、その辺のところがあるかも知れず、何とか教育したいと思うがそうもいかず、難しい問題である」
「新聞記者と会合を持ち、色々の問題を話し合うことも必要だ」等の意見が出された。

- 3) については、「医師は経営者と労働者の両面を持って仕事をしているこれを一般人は理解していない」「所得と収入を区別しないで記事が書かれている」「医師の意識の問題だと思う。良い生活をしているのだから当然」等の意見が出された。

最後に都医師会側から発言があり、「疑問のある記事については、広報部で検討し更に会長、副会長に計っていくことも必要である。」

「付合うならば良い記者と付合うべきだ。都医では記者との話し合いの場を持っている。」又「各新聞社のデスクとの話し合いのための予算もとってある。」等々有益な話があった。種々の問題について夜遅く迄討論が行われ、時間の経過するの忘れる程であった。

(文責 大嶽栄二)



学術

日常診療の中の漢方

日時 平成元年7月13日(木)

P.M 7:30~

講師 石山 淳一 先生

杏林大学講師

場所 西多摩医師会館講堂

漢方薬は“証”によって使用するのだが、当然ではあるが、“証”を的確に捉えることは

そう容易ではない。最近の生薬薬理学的知見から、特に単純な処方薬は薬理学的に用いても、“証”を満足するものもある。余り難しく考えずに、“先ず、便ってみよう漢方薬”というサブタイトルを掲げながら、日常よく遭遇する疾患にどのような方剤を使用したら良いのか、簡単にお話してみたい。

(石山先生談)

#####

第三回 西多摩医師会写真展

昨年の春秋に続いて、今回は5月23日(火)より28日(日)迄 福生の田辺画廊で開催。

出品者は

- 稲垣壮太郎 内山 大 大河原 周
- 鹿野 純一 小林 康光 近藤 友好
- 近藤 肇 三枝 襄二 坂本 保巳
- 波田野洋夫 真鍋 勉 山田 正哉
- 松原 貞一 (アイウエオ順)

の各会員と

- 正木 弘、中山 博(元会員 福生病院)
- 原田広吉(元医師会事務長)

の特別参加者の各氏。

題材も風景・静物・人物と多種多彩。4ツ切りのみであった前回迄に比べて、今回は半切も多数出品、会員を始め、保健所・健康センター職員を始め、患者・友人・知人等300人を越す来観者があり盛況であった。

27日(土)閉館後写真家 花森俊一氏を招いて懇親会を開催。

年々上達との好評を頂いた。

秋には第4回を予定していますので、多数の先生方の出品を期待しています。

(文責 松原)



文芸

「テレビ報道に感涙す」 小泉新策

民主化を求め学徒ら堂々と
天安門広場埋めつくせり

この運動万餘の民衆も参加せりと
軒昂の意気注視の中に

平静に堂々の大衆の集會に
軍は戦車駆り粉碎せるとは

痛ましき限りであるよ同胞ら
対談もせで武力粉碎とは

その不始末弾痕等煙滅せんと
兵を使ひて修復なすと

医療の面で救護準備なかりしか
診療救護に欠くるもの観る

我々も対岸の火災視し安居する
心痛むよ隣国の騒動

隣人は文化革命より十年餘
又も騒動同情に耐えず

所謂支那事変は対人民にはあらざりき
対軍閥との戦火再考

古ゆ医薬学籍染織と
文化の主流幾千年の友邦よ

第7回西東京臨床糖尿病研究会御案内

糖尿病診療に携わる医師、コメディカルの研鑽と、病診連携等の交流を目的として昭和61年に発足した本会は、西東京各地域の中心的病院などを会場に、今回第7回を迎えました。毎回、多数の開業医、看護婦、栄養士、薬剤師、検査技師などの参加があります。今回も下記のテーマにかかわらず当日症例をお持ちいただいで討論するような例会にしたいと思います。

- 演題
1. 外来での教育指導
高村 宏
阿伎留病院：清水 恵子
 2. 教育入院のシステム
立川相互病院：宮川 高一

西東京臨床糖尿病研究会
後援 西多摩医師会学術部
(文責 公立阿伎留病院内科)
高村 宏

日時 平成元年7月29日(土)
15:00~18:00

場所 公立阿伎留病院 講堂

テーマ 「糖尿病患者教育のシステム作り」

助言者 日大第三内科 林 洋一先生



新入会員紹介

真夏の夢

馬詰眼科 馬詰良比古

2月より福生市において眼科を開業致しました馬詰良比古です。

妻一人、男子三人の家族をもつ38才の疲れ始めた男です。

杏林大学を51年に卒業し眼科医となって13年、そろそろ新しい世界に移りたいと思っていました。よろしく願い致します。

さて、毎日ひまな診療所で夢見る事でもお話ししましょう。

御存知のように眼科は一日の大半を暗室で過ごしております。そうすると、眩しい太陽の下で楽しく汗をかき、その後の楽しみに想いをめぐらす事も、陽光の下でとなります。

楽しく汗をかく。高原のプールサイドに寝そべり半眼を開き、若き娘の背に光る水滴を眺め、柔らかな胸の谷間に流れ込む水に心ときめかせる。そよ風に吹かれ私の首すじの汗

が少し冷たく感じられる。これが楽しい汗の一例。

日暮の鳴き声を遠く聞きながら、緑の稲の穂をゆらす、涼しげな風が縁先に横になる私の右頬の汗を乾かせた。左頬は、のりのきいた浴衣の君のひざの上。白地に深い藍色が涼し気だが、私の左頬は乾かぬ汗が広がっている。私が君のひざ小僧をくすぐると、ほんの一瞬左の頬が涼しくなる。その時、冷たく冷えたビールをグイッ！すると、黒い影が雨音とともに縁先に近づいて来る。暗くなった縁先に雨の匂いが漂う頃、私は右の頬を下にした。乾かぬ汗が欲しくなったのだ。

この様な真夏の日々を過ごしたい。夢でしょうか。



同好会について
福祉部よりのお願い

同好会は医師会の親睦に大いによいことと思われまます。活発にやられている会、現在少しお休みをされている会もある様です。平成元年定時総会において、同好会の見直しの件について報告をさせていただきましたが、7月20日迄、現在迄の実績又は新規結成希望のある方は福祉部迄お申し出お願い致します。

お 知 ら せ

西多摩医師会納涼会
(公的病院との懇親会)
日時 7月18日(火) 午後7時~9時
会場 ホテル森川(瑞穂町)
会費 A会員 5,000円
B会員 2,000円

福祉部



あ と が き

近年の就職情報紙などでは、大学生の就職情報に特種なレーダーを持ち、その情報の多様さには、私達の想像もできない世界があるように思われる。

先日、教育実習がきまったというA M君が訪れた。彼は私が不登校児と付き合い始めて、最初の子供であった。彼が中学一年の三学期、頭痛、悪心、嘔吐、腹痛、を訴え、検査入院の目的で入院中の時であった。検査結果は、異常なし。とでた。面接をくり返してゆくうちに、学校でのいじめから、自律神経失調症状が出現、しばらくしてヒステリー症状から過換気症状、家庭内暴力をおこすようになった。救急車で何度となく来院し、1時間から2時間すると元気に帰宅、それを1年間くり返した。中学3年の3学期には何とか登校でき、本人の希望で高校を受験した。しかし、内申書は0で私立高校は不合格、何とか某都立高校にかろうじて入学できた。それからの

頑張りはすごいもので、勉学に、スポーツにと、さなぎから脱皮したかのように目ざましい成長をとげた。最後には、クラスでもトップの成績をとり、もっと勉強したいという希望から、某有名私立大学の2部に合格した。大学生活は、アルバイトを続けながら教育過程を取り、教職の免許を取るという。彼と話していると、はいあがってきた青年の姿をみることができ、人の話を聞く耳を持っている。エリート社会といわれて長いが、その社会の中で落ちこぼれている子も増え続けている。少数だからと切り捨てられる子供達こそ、今の社会の矛盾を背負っているのではないかと痛感する。

夏には、都の教員採用試験を受けることになるであろう。一步一步自分の力で進み続けるこの青年を、「がんばれ」と声援を送り、じっと見守ってゆきたいと思っている。

記 横田



平成元年7月1日発行

発行所 (社) 西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103

TEL (0428)23-2171(代)

会報編集委員 大嶽栄二

石井好明	栗原琢磨	小林杏一
真鍋勉	道又正達	百瀬眞一郎
横田博	渡辺良友	

印刷所 マスタ印刷 TEL (0428)22-3047

ハイテクノロジー検査領域へ!

本社総合ラボは、日々進展変化する臨床検査システムに対応すべく、関東医学研究所の総力を投入し、最先端検査機器を駆使した正確な情報の抽出を目指しています。検体のお預りからデータのご報告まで、確実に迅速にお応えします。

事業内容 一般検査、血液学的検査、血清学的検査、臨床化学検査、微生物学的検査、ラジオ・アイソトープ検査、病理学的検査、集団検診などの臨床検査



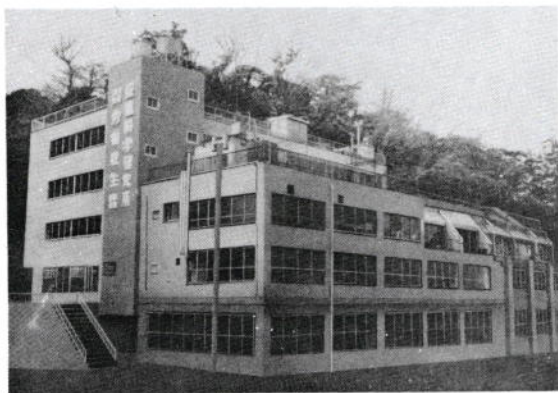
臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106

電話 045 (333) 1661 (大代表)

八王子市子安町3-17

電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データ通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
 - 内分生物学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
 - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

1都11県の御得意先を毎日定期的に集配致します。御一報を御待ち致しています。